

## 【成績評価基準】

	評 価		評点	G P	内 容
判定	合格	秀	100～90点	4	特に優れた成績
		優	89～80点	3	優れた成績
		良	79～70点	2	妥当と認められる成績
		可	69～60点	1	合格と認められる最低限度の成績
	不合格	E	59～0点	0	合格と認められる最低限度の成績に達していない。当該セメスター終了後は、再履修することで合格の評価を受けることができる。
		M	—	0	欠席の限度を超えたことにより、履修したと認められない成績。再履修することで合格の評価を受けることができる。
無判定	認定	認	—	—	留学や他大学などで修得した科目を本学の単位として認めたものなど（編入学認定単位、久留米市単位互換制度等でG P Aの履修登録の単位数には含めない。）
	履修中止	×	—	—	特別な理由（長期病欠等）により、履修が中止されたもの。（G P Aの履修登録の単位数には含めない。申請により手続きを行い、履修変更と区別する。）

(GPA の算出式)

$$GPA = \frac{[点数 (GP) \times 科目の単位数] の和}{履修した科目の総単位数}$$

### GPA に算入しない科目及び単位

- ①卒業要件に含まれない教職科目
- ②編入学時の認定単位（一括認定単位、科目認定単位）
- ③入学前に取得した他大学の認定単位
- ④他大学（久留米市単位互換制度、国内・国外留学等）の取得単位
- ⑤複数学期（セメスター）にわたる成績評価で、最終学期まで評価を保留する場合。  
なお、最終学期では GPA に含む。
- ⑥その他、上記以外で GP の評価を行わない科目及び認定単位  
特別ゼミ、インターンシップ、自主活動、学外教育の単位

### 成績評価について

- ①本試験で再履修（E評価）を指示された者は、再試験を受けることが出来ません。  
この時の GP は 0 点となります。
- ②本試験の成績が 0～59 点の者は不合格となり、再試験を受けなければなりません。また、再試験の成績が 0～59 点の者は再履修（E評価）となります。
- ③本試験、再試験での未受験者は 0 点で表示されます。
- ④やむを得ない事情による試験欠席の取扱いは、追試験まで一時的に保留（K評価）となります。追試験が未受験のときは 0 点で表示され、セメスター終了後、自動的に再履修（E評価）となります。
- ⑤不合格科目 E、M の科目は次年度以降再履修することで合格の判定を受けることができます。（再履修

をして合格した場合、過去の「不可」の成績は、原則 GPA の計算式には入りません)

#### 【GPA 制度による学修状況把握の目安】

GPA の値	評価の平均値	学修・生活面の状態
4.00～3.00	秀評価～優評価を平均的に修得	非常に優秀。問題はない。
2.99～2.00	優評価～良評価を平均的に修得	問題はないが、セメスターごとに下がってきている場合は注意が必要。
1.99～1.00	良評価～可評価を平均的に修得	ぎりぎり合格しているレベル。本人の学修姿勢により、急激に不合格が増える可能性もあり注意が必要。
0.99以下	不合格の割合が多い	学修面、生活面で問題を抱えている場合が多い。学修状況や生活面での見直しが必要。

#### 履修上の注意

- ①履修登録の上限は、各年度48単位とします。ただし、GPA に算入しない科目を除きます。
- ②一度、合格した科目の再履修はできません。
- ③履修変更及び取消期間の設定  
年度始めの履修登録後の履修変更及び履修取消は、前期セメスターの定められた期間内で行って下さい。また、後期の履修科目については、定められた期間内で履修変更、追加履修登録及び取消を行うことができます。なお、一旦、履修登録をすると所定の取消の手続きを行わない限り GPA に算出され、GPA の評価を下げることもなります。
- ④特別な理由（病気ケガによる長期欠席等）による履修取消手続き（申請書）を教務課で行うことができます。教務課に相談してください。

#### GPA による学生指導について

- ①各学年終了時における GPA が1.0未満の場合は修学指導を行い、改善が見られない場合は退学勧告を行う場合があります。（工学部履修規則第12条の3）。

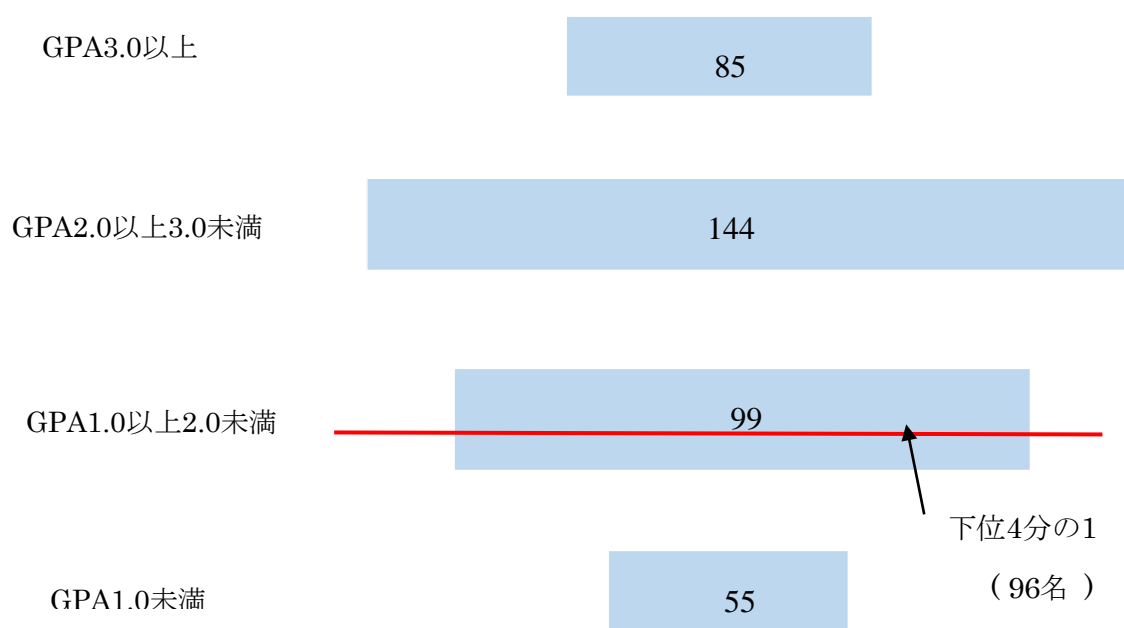
#### 【成績証明書への表示について】

- ①卒業後の成績証明書には秀、優、良、可、認で記載されます。
- ②卒業後の成績証明書には GPA のスコアは記載されません。

【成績の分布を表す資料】

工学部 第2学年（学生数 383名）

GPAの数値分布状況（単位：人）



下位4分の1：GPA 1.46 以下 (96名)